

北軽井沢のレストランの花壇で見つけた、淡い藤色のスカビオサです。日本の高原に咲くマツムシソウによく似ていますが、こちらは園芸種の西洋マツムシソウの仲間と思われます。細く長い茎の先に花を掲げる姿はとても軽やかで、高原を吹き抜ける風に合わせてゆっくりと揺れていました。背景の柔らかな緑に溶け込むような色合いも印象的で、派手さはありませんが、見る人の心を穏やかにしてくれる花です。

花の中心には小さな花が集まり、その周囲を取り巻く花びらが繊細なレースのように広がっています。また、咲き終わった後の球形の花頭や、開花を待つつぼみも見られ、一株の中にさまざまな成長段階が共存していました。こうした姿を観察すると、花は一輪だけで完結するものではなく、次の世代へと命をつなぐ過程そのものが美しいのだと感じます。

北軽井沢では初夏になると多くの花々が咲き始めますが、このスカビオサはその中でも特に涼やかな印象を与えてくれます。高原の爽やかな空気の中で、静かに風に揺れる姿を見ていると、忙しい日常を忘れ、ゆったりとした時間の流れに身を委ねたくなります。華やかさよりも自然な優しさを大切にしたいと思いながら、この一枚を撮影しました。

(2026年5月上旬／北軽井沢)

